

# 「言語学論叢」の発刊に当って

林 四 郎

筑波大学の大学院博士課程、文芸・言語研究科；言語学専攻の領域には、一般言語学と応用言語学、および、日本語、英語等、個別言語学の研究分野があります。このたび、一般言語学と応用言語学を専攻する学生諸君が中心になって、言語学の論文を発表するジャーナルを作ろうということになりました。この話は、かなり前から、その希望を聞いていましたので、それは大変いいことだと思ったり、言ったりしていましたが、私たち教官の側では、少なくとも私自身は、言うだけで、何も具体的援助は、しないでいました。

それが、最近になり、めきめき、話が具体化して来た——というのは、もっぱら学生諸君が本当にその気になり、長続きする方策を考えついたためです。

経済的なことをはじめ、困難点はたくさんありますが、いちばんの問題は、いい論文が集まるかどうかです。学内での、論文のできかたや、レポートの内容、口頭発表の様子から見て、どうやら出発してよいところに来たようです。

「言語学論叢」という、かつて、東京教育大学文学部において、言語学の研究発表誌に用いられていた名称を、勝手ながら、いただくことにしました。

若い人たちの一所懸命な書きものが、新しい言語学論叢を生氣に満ちたものにしていくことを信じます。

出発しましょう。

1982年3月5日記す。